

特記事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>ますについて</li> </ul>	<p>塩ビ製小型ます（内径20 c m）を標準とする。</p> <p>L型側溝及び街渠側溝の場合（歩道設置部は除く）はL型ますとする。改築の場合、丸型で施工可。</p> <p>丸型の場合は、敷地境界から1メートル以内に設置。</p> <p>150-150（縦管φ200）ステップなしのストレートます</p> <p>宅内側がφ100の場合、インクリーザ、ブッシング等で調整。</p> <p>深さ15 c m以上の泥だめ、泥だめバケツ（取手付き）を設ける。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水ますの場合</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>蓋について</li> </ul>	<p>市章「こ」、合流区域…「合流」、分流区域…「おすい」・「うすい」（丸型）・「雨水」（L型）の明示。</p> <p>駐車場等車が載る箇所及びφ300の場合、防護鉄蓋で施工する。それ以外の場合、塩ビ製蓋で施工可（丸型の場合）。</p> <p>直径20mm程度の大きさの穴を1つ空けること。（L型の場合）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>内蓋について</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>取付管について</li> </ul>	<p>塩ビ管を使用し、管径は150mmを標準とする。</p> <p>ただし、汚水のみを排除する排水管で、排水人口が500人以上の集合住宅等の施設は、管径を200mmとする。</p> <p>雨水又は雨水を含む下水を排除する排水管で、排水面積が600㎡以上の区域に設置する取付管の管径は200mmとする。</p> <p>排水面積が1,500㎡以上の場合は、別途、流量計算に基づき管径を決定する。</p> <p>延長は、最大9 mとする。それ以上の場合は、担当者と協議。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>改築の場合の取付管の取扱い</li> </ul>	<p>取付管種にあった継手・接着剤を使用（モルタル不可）。</p> <p>原則、取付管が更生管の場合は、担当者と協議。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>撤去の場合の取付管の取扱い</li> </ul>	<p>閉塞用支管を使用し、ヒューム（HP）管の場合は、ビス留め（φ300以上）又は番線留め、塩ビ管の場合は、番線留めビス留めで固定。</p> <p>本管から突出する形の閉塞用支管及び塩ビ支管に直管を接続して塩ビキャップにて閉塞する場合には突出部に防護コンクリートの施工を行う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>人孔の取付管について</li> </ul>	<p>砂付短管又は可とう性継手（ボックスカルバートの場合は、担当者と協議）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>取付支管について</li> </ul>	<p>人孔外側及び他の支管から1 m以上離す。取付管口径が250mm以上の場合は担当者と協議。</p> <p>クラ型90度支管を標準とする。</p> <p>起点マンホールに取付管の接続がない場合、起点マンホールの下流1本目の取付支管は、クラ型60度支管を使用する。</p> <p>本管に対し直角に布設し、勾配は1%以上確保し、中心線より上方に取り付ける。</p> <p>ヒューム（HP）管用と塩ビ管用（塩ビ本管には塩ビ管用ボンド）を区別して使用。</p> <p>ヒューム（HP）管の場合…ビス留め（φ300以上）又は番線留め、塩ビ管の場合…番線留め</p> <p>本管の穿孔は専用の穿孔機を使用。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>接合剤について</li> <li>固定方法について</li> <li>穿孔について</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>人孔への接続について</li> </ul>	<p>やむを得ず取り付ける場合は、管底接合とし、インバートを設ける。</p> <p>起点マンホールへの接続は、最大3箇所まで。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>深さについて</li> </ul>	<p>L型の場合、管底からみずみちまで。丸型の場合、管底から蓋上部まで。</p> <p>最低85 c m以上必要（改築の場合を除く）</p> <p>1. 20mまで…φ200（取付管150mm）</p> <p>2. 00mまで…φ300（取付管150mm・取付管200mm）</p> <p>右記以外の場合は、担当者と協議。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>埋め戻しについて</li> </ul>	<p>埋め戻しは30 c mピッチ、路床部（舗装下1 mの範囲）は20 c mピッチで転圧。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>その他</li> </ul>	<p>L型の場合、公共ます立上り部とL型ます縁塊用底板の間は砂埋めとする（モルタル不可）。</p> <p>街きょエプロン部にL型ますを設置する場合、コーピン及びみずみちの高さを周りと合わせる（不足分は増し打ち）。</p> <p>汚水ますを設置する場所に地下埋設物等があり支障となる場合は、その障害物を移設する費用は個人負担。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>施工の考え方</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり条例該当</li> <li>まちづくり条例非該当</li> </ul>	<p>原則、一宅地に1個のため、複数ある場合は、本管から撤去。</p> <p>複数ある場合は、複数使用可能。使用しないのであれば、ますを残し宅地側流入管を閉塞。排水設備計画確認申請書の図面に表示。</p>

車道用防護蓋

